



人生の選択

施設長 小川内秀樹

特養へ入所を希望する方は、後を絶ちません。病院、療養施設におられる方、在宅介護を受けている方など、様々な環境の中に身を置きながら、待つておられます。制度が変わり、要介護度三以上の方が入所対象ですが、身体や、認知症の度合いで、それぞれの必要は異なっており、同じ介護度でも、人それぞれです。

すでに入居されている方であっても、体調を崩し、入院されると、必ずしも特養へ戻れる方ばかりではありません。食事、口が摂れなくなると、生活の継続が困難になり、そんな時、どの手段を選んで行くかは、その後の過ごし方に大きく関わってきます。言わば、人生の選択です。型どおりの選択など、ひとつもありません。悩んで当然です。進んでみないと、わからないことばかりです。私たち職員であっても、知識や技術、経験値はありますが、正解を予め持っている訳ではありません。大事なのは、選択に臨むご利用者に、寄り添う事なのだと思います。寄り添うとは、専門職として、幾つかの道を選び、一緒に考えていくことです。また、キングスガーデンの姿勢は、神様に結果を委ねることなのだと思います。

七月のボランティアと実習生

山田国昭様 金沢順子様 風見とみ子様 牧野和子様
山田千恵様 佐藤ゆう子様 矢花光様 大塚満様
協力牧師の方々
いつも暑い働き ありがとうございます。



(NO.349)
特別養護老人ホーム
筑波キングス・ガーデン
0297(24)5139



谷中 榮様 長女 赤木洋子

母は、関東鉄道常総線三妻駅の近くにある、家電販売店を父と営んでいました。当時は、高度経済成長期でもあり、次々とカラーテレビやエアコンが売れ、仕事に明け暮れる日々でありました。私も夏休みには毎日のようにお店番をしていました。しかし、この軌道に乗るまでは、母は父の病気を治すために洋裁を教え、生活のために働いていました。手先が器用で、人に教えることが大好きで、えいこちゃん！とみんなに親しまれていました。

息子と娘が大きくなるまでは、毎日毎日、父母共によく面倒を見てくれ、人のために頑張る母でした。父を失い、人のために生きることを目標を失いかけていた矢先に、施設の皆様に声をかけて頂きました。いつも笑顔で迎えてくださり、本当に親身になってお世話していただいていることにたくさん感謝です。今後ともよろしくお願ひいたします。



サマーフェスティバルの風景

手作りうちわを片手に笑顔



陽気な雰囲気笑顔が弾けます！



外で食べる焼きそばおいしいね！



ご家族と一緒に！

家族と共に

日時

九月十八日(月) 祝日
十一時～十五時三十分

当日の予定

- ☆ 家族懇談会
- ☆ 食事会
- ☆ アトラクシヨ

ご家族様のお越しを心よりお待ちしております



昨年の食事会での風景

編集後記
連日厳しい暑さが続いています。体調を崩さぬようお気を付けてください。
ヘルパー 石塚 中澤

相談員日誌
飯山 佳成子

少し前にディスプレイの雛がカエリました。草むらに隠れてしまっ程の背丈で、庭の端から端へと駆け回っている姿が、なんとも可愛らしい。嬉しいこともあるものですね。庭の前を通りかかると、その姿を探し、ご利用者と一緒に、頬を緩めて眺めています。特養の中庭では、夏の花や野菜を栽培し、大きく実ったオクラを、ご利用者とヘルパーが収穫しました。また、U様は毎朝、居室から見えるあざおの花を教え、今日もお元気が咲いているわね。花が増えたわ。」と教えて下さいます。八月、夏本番。暑さが身体に伝え、特にご利用者にとっては厳しい毎日ですが、この季節ならではの楽しみを感じながら、一緒に乗り切っていきたいです。

サマーフェスティバル

神によって、私たちは力ある働きをします。
詩篇六十編十一節

ヘルパー 副主任 石塚綾子

八月四日にサマーフェスティバルが開催されました。天気も心配されましたが、無事に行うことができました。今年のステージ発表では、テールプーマーズによるジャズの演奏や、初参加の筑波大のフォルクローレの方々による民族楽器の演奏で、いつもと違った雰囲気味わうことができました。また特養ヘルパーの発表では、曲に合わせ、手話を行いました。職員はこの日のために練習を重ねてきました。ご利用者が楽しんでおられる姿を見るのができ、とても良かったです。例年より、多くの利用者が外に出て参加され、花火が上がると、歓声があがり、利用者も地域の方々も、くきづけになり、眺めておられました。普段とは違った雰囲気、夏の思い出を作る事ができたと思います。

お誕生日おめでとうございます
日野原重明先生との出会い
今から三十一年前、介護の現場で盛に突き当たり悩んでいたとき、朝日新聞の連載記事が目にとまり、毎日楽しみに読んでいました。その連載が、若いを創める」という一冊の本として出版され、初めて書店の本屋さんに並び三冊購入、その一冊に当時、赤いペンで線を引き、鉛筆で書き添え少し色あせて今、手元にある。その後、感謝にもキングスガーデンで働かせて頂き、ご利用者のYさんから先生に会いたいのですかと言われ、領くと数日後、本当に日野原先生がキングスガーデンに面会に来て下さいました。何を話したか思い出せませんが、先生との会話の楽しさは心に残っている。それからYさんが召されるまで、時間をさいて面会に来て下さり、時には新聞を発行される宇都宮和子様と大きくサインして贈って下さいました。



南国の装いで楽しみました！



真剣な表情の職員(持巻の出(物)にて)

その後ほごで会っても声をかけて下さり、先生から勇気を頂いておりました。八月一日、一人で朝早く聖路加国際大学に行き献花、陣の礼拝堂で又天国でお会いできることを約束しお別れしてきました。多くの人に命の尊さ、生きる勇気を教えてくれた日野原先生の言葉は私の心の柱になっている。南斜面の心を忘れず、先生への感謝！